

やさしかつた文

ふゆゆく 秋の夜 たひの空に

こいし ^{あつた} 母 しすかに 舌布を

たしか こんちん だいたいの おぼえに

思ひ出す

今朝の 五時すぎ

このメロディが 流れていく

父がすぎたところか

よくうたうていた

若いころ ワグン車へ行っていた

現在は何国にいる

さむしかつたのかもしねる

るくるして かなりあつ

今ごろ 何故か父のこと 思ひ出す

やさしかつた 父が 時折 かがやき 出しかり

すま

私は父の子

心やさしい 自分で 存心か と思ひ出す

今朝は 温しいをこえ さむくて

カーテンを 閉めて

こんな あさは

存心 文を思い出す 9かもしれずい

私も やさしい自分で 字がねばと

あうにゆき 思うに 朝

本心の中 静しう きりばし 在い

2025
10/17